

平成31年度予算のあらまし

平成31年度那珂川町一般会計予算は、8,100,000千円となり、前年度予算に対し、160,000千円減（1.9%減）となった。これは、旧庁舎及び、旧小川庁舎解体工事費の減額ほか、ケーブルテレビ事業特別会計において、小川サブセンター整備事業が完了したことにより、特別会計への繰出金が減額したことが主な要因となっている。

特別会計は、国民健康保険特別会計が増額となったが、ケーブルテレビ事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、下水道事業特別会計で減額となったため、特別会計の予算総額は4,871,500千円となり、前年度予算に対し、385,500千円の減（7.3%減）となった。

ケーブルテレビ事業特別会計予算は、224,000千円で、小川サブセンター整備事業の完了により、前年度予算に対し、426,000千円の減（65.5%減）となった。

国民健康保険特別会計予算は、2,142,000千円で、国民健康保険事業納付金及び、保険給付費の増により、前年度予算に対し、52,000千円の増（2.5%増）となった。

後期高齢者医療特別会計予算は、209,500千円で、後期高齢者医療広域連合への納付金の減により、前年度予算に対し、1,500千円の減（0.7%減）となった。

介護保険特別会計予算は、1,945,000千円で、介護サービス給付費及び、介護予防費が主なもので、前年度同額予算となった。

下水道事業特別会計予算は、300,000千円で、施設管理費及び、公債費の減により、前年度予算に対し、10,000千円の減（3.2%減）となった。

農業集落排水事業特別会計予算は、51,000千円で、施設管理費が主なもので、前年度同額予算となった。

水道事業会計予算は、690,980千円で、施設管理費の増により、前年度予算に対し、3,180千円の増（0.5%増）となった。

これにより、一般会計及び各特別会計並びに水道事業会計の予算総額は、13,662,480千円となり、前年度予算と比較して、542,320千円の減（3.8%減）となった。

一般会計における歳入の財源内訳、歳出の性質別内訳は、次のとおりとなった。

●歳入内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
自 主 財 源	3,035,815千円	37.5%	0.6%増
依 存 財 源	5,064,185千円	62.5%	3.4%減

●歳出内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
投 資 的 経 費	774,838千円	9.6%	1.3%減
消 費 的 経 費	5,070,592千円	62.6%	1.9%減
その他の経費	2,254,570千円	27.8%	2.1%減

歳入の構造は、自主財源において、個人町民税のほか、たばこ税などの町税が増額となり、3,035,815千円（対前年度比19,026千円増、0.6%増）を計上したが、自主財源比率は37.5%と、依然として低い状況にある。依存財源については、普通交付税が合併特例期間の10年を経過し、段階的縮減が実施されているところであり、大幅な減額となった。また、地方消費税交付金、分担金及び負担金のほか、国庫支出金においても減額となった。町債については、旧庁舎及び、旧小川庁舎の解体工事費が減額となったが、引き続き、町道76号線などの町道改良舗装事業や、消防ポンプ車購入費のほか、学校の改修工事に充当することとし、将来の財政負担に支障がないように過疎対策事業債や合併特例事業債などの有利な起債を活用する。また、財源補てんに充当する臨時財政対策債については、国の平成31年度概算要求を踏まえて、250,000千円を計上した。この結果、依存財源は、5,064,185千円（対前年度比179,026千円減、3.4%減）となった。

歳出については、町民ニーズを検証し、安心・安全な生活基盤を構築するため、費用対効果の観点から、各事務事業の見直しを行い、創意工夫と柔軟な発想を持って、予算を編成したところ、対前年度比160,000千円減、1.9%減の予算となり、「第2次那珂川町総合振興計画」に基づき「那珂川町人口ビジョン」及び、「那珂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた地方創生に向けた取り組みなどに重点を置き予算措置した。